

令和 3 年 7 月 6 日
調布市教育委員会指導室

調布市立小・中学校における「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における
学校連携観戦プログラム」について

1 教育委員会としての方向性について

⇒全市立小・中学校とも観戦を中止とする。

2 方向性に係る判断の理由について

都の感染状況については依然として増加傾向にあるとともに、今後は変異株による感染拡大も懸念される。児童・生徒の安全・安心を第一とする観点から、観戦については中止とせざるを得ないため。

【判断に至る考え方】

- ・市立小・中学校は、全校とも競技会場は市内にあるが、競技会場への移動は、徒歩・公共交通機関の利用に関わらず、集団行動となり、密な状況下に児童・生徒を置くことになる。
- ・競技会場には不特定多数の観客が集まるため、感染リスクが高い環境となる。観戦する場合は、児童・生徒及び保護者に対し、市教育委員会として感染予防策等を具体的に示すことで、安心・安全な観戦であることを説明することが求められる。
- ・7月5日付 事務連絡「学校連携観戦に係る取扱い」にて、都から情報提供があった。
→「参加上限人数は座席エリアの半分」「直行・直帰の徹底」「大声での会話や応援行為、他の観客と接触するような行為はしない。」など示されたが、「入退場優先レーンは、他の団体も通過」「混雑を避けるため、競技開始・終了時刻から30分ずらして入退場」「トイレは一般観客と共用」（都に確認）など、「学校連携観戦」と一般観客との明確な分離はない。
※市教育委員会としての安全・安心な観戦についての説明は困難と考える。
- ・なお、オリンピック大会とパラリンピック大会は開催時期が異なるため、各校の観戦日もそれぞれ異なる。パラリンピック大会開催時に感染がおさまりに、観戦できる状況となったとしても、同じ市立小・中学校で「観戦した学校」と「観戦しない学校」があるのは、公教育の公平性から適切ではないと考え、オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会共に観戦を中止する。

3 中止の場合の「学校連携観戦」の補完について

当初予定していた観戦日等に、各校にてオンラインでのオリンピック・パラリンピック競技大会の応援活動等を実施する。(今後、校長会と調整)

⇒オリンピック・パラリンピック教育に位置付けるとともに、大会終了後、レガシーとして、次年度以降も長く続く教育活動として展開できるようにする。

〔例〕・各校（各教室）にてテレビ放映等を見て応援する。

・夏季休業中の課題として、オリンピック・パラリンピックについての調べ学習 など

【参考】

*「とうきょうの教育」第119号 令和2年1月から

大会後も受け継いでいこう！東京 2020 大会のレガシー

オリンピック・パラリンピック教育を通して学んだことを、大会が終わっても3つのレガシーとして残していきます。

- ・子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となるレガシーを残す。
- ・学校における取組を、大会後も長く続く教育活動として発展させる。
- ・学校や地域と連携した取組で共生社会を実現する。

4 参考資料

「学校連携観戦に係る取扱いについて」(7月5日付 事務連絡 東京都教育庁指導部(オリンピック・パラリンピック)担当課長)【別紙】